

社会福祉法人新井頸南福祉会

令和4年度事業報告書

- ・法人経営

- ・事業運営

 - 介護老人福祉施設

 - 短期入所生活介護

 - 通所介護

 - 訪問介護

 - 居宅介護支援

 - 小規模多機能型居宅介護

 - 認知症対応型共同生活介護

 - 有料老人ホーム

 - 委託事業

目 次

1 . 法人の事業概要	1
2 . 理事会等の活動状況	3
3 . 法人本部（法人事務局）活動状況	4
4 . 事業運営状況	5
・みなかみの里事業運営状況	9
・北条の家事業運営状況	17
・ゆきのみや事業運営状況	22
・みのりの丘事業運営状況	26
・妙高の里事業運営状況	34
・名香山苑事業運営状況	36
・委託事業運営状況	44

令和4年度事業実施状況

令和5年3月31日現在

1. 法人の事業概要

- (1) 法人の名称 社会福祉法人新井頸南福祉会
(2) 事務所の所在地 新潟県妙高市大字上新保 549 番地(みなかみの里内)
(3) 設立認可年月日 昭和 63 年 7 月 22 日
(4) 設立登記年月日 昭和 63 年 8 月 5 日
(5) 代表者 理事長 尾島隆司
(6) 役員等の構成
 . 理事 定数 6 名以上 8 名以内 現在員 6 名
 . 監事 定数 2 名 現在員 2 名
 . 評議員 定数 7 名以上 9 名以内 現在員 7 名
 . 評議員選任・解任委員 定数 5 名 現在員 5 名
(7) 法人事務局 事務局長 1 名、法人総務課 2 名、企画調整課 2 名

(8) 事業の内容

- . 第一種社会福祉事業
 . 特別養護老人ホームの経営
. 第二種社会福祉事業
 . 老人短期入所事業の経営
 . 老人デイサービス事業の経営
 . 老人介護支援センターの経営
 . 老人居宅介護等事業の経営
 . 認知症対応型老人共同生活介護事業の経営
 . 小規模多機能型居宅介護事業の経営
 . 障害福祉サービス(短期入所)事業
 . 障害福祉サービス(訪問介護)事業
. 公益事業
 . 居宅介護支援事業
 . 介護保険法に定める訪問調査の受託等
 . 有料老人ホームの経営
. 受託事業
 . 妙高市高齢者生活福祉センター管理業務

(9) 施設の内訳等

- . みなかみの里 所在地: 新潟県妙高市大字上新保 549 番地
事業等: 特別養護老人ホーム(100 床)、短期入所(33 床・空床型)、デイサービス(30 名)、在宅介護支援センター、居宅介護支援
職員数: 125 名(正職員 68 名、常勤契約 10 名、非常勤 46 名、嘱託員 1 名)
. ゆきのみや 所在地: 新潟県妙高市大字宮内 92 番地 3
事業等: 特別養護老人ホーム(18 床)、小規模多機能型居宅介護(登録 25 名)
職員数: 35 名(正職員 20 名、常勤契約 5 名、非常勤 10 名)
. 北条の家 所在地: 新潟県妙高市大字北条 585 番地 1
事業等: 訪問介護、小規模多機能型居宅介護(登録 18 名)、有料老人ホーム(20 室)
職員数: 29 名(正職員 8 名、常勤契約 6 名、非常勤 15 名)
. 名香山苑 所在地: 新潟県妙高市大字関川 733 番地 20
事業等: 特別養護老人ホーム(100 床)、短期入所(22 床・空床型)、デイサービス(35 名)、在宅介護支援センター、居宅介護支援
職員数: 114 名(正職員 64 名、常勤契約 19 名、非常勤 27 名、嘱託員 4 名)

. みのりの丘	所在地:	新潟県上越市中郷区藤沢 998 番地 1
	事業等:	特別養護老人ホーム(29 床)、小規模多機能型居宅介護(登録 29 名)、 認知症対応型共同生活介護(18 床)、通所介護(30 名)
	職員数:	85 名(正職員 43 名、常勤契約 12 名、非常勤 30 名)
. 妙高の里	所在地:	新潟県妙高市大字葎生 531 番地 1
	事業等:	デイサービス(32 名)、妙高市高齢者生活福祉センター管理業務
	職員数:	22 名(正職員 4 名、常勤契約 5 名、非常勤 13 名)

(10) 基本財産

. 土地	【みなかみの里】	・新潟県妙高市大字上新保 549 番地 1	10,104.08 m ²	
		・新潟県妙高市大字上新保 554 番地 1	2,778.80 m ²	
		・新潟県妙高市大字上新保 1398 番地 2	52.00 m ²	
		(小計 3 筆)	12,934.88 m ²	
	【名香山苑】	・新潟県妙高市大字関川 733 番地 20	4,239.80 m ²	
		・新潟県妙高市大字関川 732 番地 5	390.43 m ²	
		・新潟県妙高市大字関川 732 番地 6	271.88 m ²	
		・新潟県妙高市大字関川 732 番地 8	47.81 m ²	
		・新潟県妙高市大字田口 1 番地 12	5,005.46 m ²	
		・新潟県妙高市大字田口 1 番地 24	304.17 m ²	
		・新潟県妙高市大字田口 1 番地 26	604.18 m ²	
		・新潟県妙高市大字田口 8 番地 1	807.05 m ²	
		・新潟県妙高市大字毛祝坂 1 番地 5	506.38 m ²	
		(小計 9 筆)	12,177.16 m ²	
	【ゆきのみや】	・新潟県妙高市大字宮内 92 番地 3	1,623.00 m ²	
		・新潟県妙高市大字宮内 93 番地 1	76.00 m ²	
		・新潟県妙高市大字宮内 93 番地 2	1,495.00 m ²	
		(小計 3 筆)	3,194.00 m ²	
	【みのりの丘】	・新潟県上越市中郷区藤沢 998 番地 1	949.50 m ²	
		・新潟県上越市中郷区板橋 569 番地 2	1,624.74 m ²	
		・新潟県上越市中郷区八斗蒔 127 番地 2	1.60 m ²	
		・新潟県上越市中郷区八斗蒔 128 番地 1	4,038.61 m ²	
		(小計 4 筆)	6,614.45 m ²	
		合計 19 筆	34,920.49 m ²	
. 建物	【みなかみの里】	・養護所	5,439.30 m ²	
		・倉庫・車庫	147.60 m ²	
		・機械室	42.13 m ²	
		・物置	8.27 m ²	
		・機械室	36.72 m ²	(小計 5 棟 5,674.02 m ²)
	【名香山苑】	・養護所	6,207.59 m ²	(小計 1 棟 6,207.59 m ²)
	【ほのぼの北条】	・養護所	199.98 m ²	
		・車庫	27.95 m ²	(小計 2 棟 227.93 m ²)
	【ゆきのみや】	・養護所	1,218.14 m ²	(小計 1 棟 1,218.14 m ²)
	【みのりの丘】	・養護所	2,931.66 m ²	(小計 1 棟 2,931.66 m ²)
		合計 10 棟	16,259.34 m ²	

(11) 公益事業用財産

. 建物	【あっとほーむ北条】	・共同住宅	742.28 m ²	合計 1 棟 742.28 m ²
------	------------	-------	-----------------------	------------------------------

2. 理事会等の活動状況

(1) 理事会

- ・令和4年度第1回通常理事会(令和4年5月25日開催)
- ・常勤役員の7月賞与支給額について
- ・理事候補者の推薦について
- ・安全運転管理規則の一部改正について
- ・令和3年度事業報告及び事業会計収支決算について
- ・自転車等機械振興事業に関する補助事業の実施について
- ・令和4年度事業会計収支補正予算について
- ・令和4年度定時評議員会について
- ・令和4年度第1回臨時理事会(令和4年6月10日開催)
- ・理事長の選任について
- ・常務理事の選任について
- ・令和4年度第2回通常理事会(令和4年11月24日開催)
- ・常勤役員の12月賞与支給額について
- ・就業規則、契約職員就業規則及び短時間勤務職員就業規則の一部改正について
- ・給与規程の一部改正について
- ・みなかみの里及び名香山苑無線ナースコールシステム設備更新工事について
- ・令和4年度事業会計収支補正予算について
- ・令和4年度第3回通常理事会(令和5年3月23日開催)
- ・苦情解決第三者委員の任命について
- ・老人居宅生活支援施設長の任命同意について
- ・契約職員就業規則及び短時間勤務職員就業規則の一部改正について
- ・給与規程の一部改正について
- ・職員紹介採用制度規程の制定について
- ・老人居宅支援施設設置管理規則の一部改正について
- ・介護老人福祉施設関連の事業運営規程の一部改正について
- ・短期入所生活介護関連の事業運営規程の一部改正について
- ・通所介護関連の事業運営規程の一部改正について
- ・小規模多機能型居宅介護関連の事業運営規程の一部改正について
- ・認知症対応型共同生活介護関連の事業運営規程の一部改正について
- ・令和4年度事業会計収支補正予算について
- ・令和5年度経営及び事業計画、事業会計収支予算について

(2) 監査会

- ・令和4年度第1回監査会(令和4年5月17日開催)
- ・決算監査(令和3年度事業報告書・財産目録・貸借対照表及び収支計算書の監査)
- ・令和4年度第2回監査会(令和4年10月18日開催)
- ・定期監査(みなかみの里ブロック各施設の令和4年度前期事業及び会計処理等の監査)

(3) 評議員会

- ・令和4年度定時評議員会(令和4年6月10日開催)
- ・評議員会会長の選任について
- ・理事及び監事の選任について
- ・令和3年度事業報告及び決算(計算)書類並びに財産目録の承認について

3. 法人本部(法人事務局)活動状況

(1) 安定的な事業運営

新型コロナウイルスの集団感染が、7月にみなかみの里(特養内)で、11月にみのりの丘(グループホーム内)で、12月に名香山苑(特養内)で発生し、3施設合わせて延べ入所者59名、職員43名が感染した。他の入所系サービスでも集団感染に至らない単発的な発生もあり、その対応に追われる1年となった。感染症の地域流行や施設の集団感染の影響は、利用実績数に顕著に表れ、特養施設では前年比約2,000人の利用減となった。また、在宅サービスの休業や利用調整、利用控え等も影響し、短期入所と通所介護を合わせて前年比約1,800人の利用減となるなど、新たな処遇改善加算が加わる一方で実質的な事業収入減となり、安定した利用者の確保が非常に困難な年度となった。

令和4年10月からのパート従業員の社会保険適用拡大を受けて導入した週30時間勤務(常勤)契約職員制度等が影響し、職員数を減員しているにも関わらず、人件費は前年比約0.6%上昇した。また、物価高や燃料費を含めた光熱水費の価格上昇により、事業費は前年比約10.0%上昇した。行政から感染症下のサービス提供体制緊急確保事業費補助金や物価高騰対策支援金等の特別支援を受けたものの、実質的な事業収入減と大幅な事業支出増が重なり、事業活動収支差額が前年比約27.2%減少するなど、事業経営的には非常に厳しい年度となった。

正職員の退職率に著しい変化はないものの、補充できる職員の割合がここ数年顕著に下がる傾向にあり、介護人材の絶対数を確保することが更に難しい状況になった。限られた職員を有効的に配置するため、在宅サービスを中心とした利用定員の見直しや職員の配置調整を検証する一方で、職員の離職防止と人材確保策として、扶養手当の増額や職員紹介採用制度の導入、新卒者への就職支援金の創設等を行った。

(2) 経営10カ年計画推進部会活動と進行管理

【広報推進委員会】では、各施設において選任された広報責任者への支援、助言等を行うとともに、発行された広報誌やブログを中心に、その内容の確認や意見交換を行った。

【人材育成推進委員会】では、人事考課制度の一部運用方法等の見直しを提案した。年度後半は、施設での新型コロナウイルスの集団感染等の影響を受け、予定していた会議開催ができなかった。

【サービス向上管理委員会】では、11月を誤薬事故防止強化月間に指定し、マニュアルの徹底と再確認を行った。送迎、入浴等の各種マニュアルの見直し作業とともに、事故防止や褥瘡発生防止のための指針を制定した。

【ICT・ロボット技術研究委員会】では、在宅サービスの記録や入所予約に係るシステム更新を行い、特養に自動寝返り支援ベッドを導入した。特養と短期入所でのナースコール設備更新による運用方法等を確認した。

【地域包括ケア推進委員会】では、妙高市はねうまカレッジ(まなびの杜・リカレント講座)に職員を派遣し、妙高市の介護に関する状況を現場の声を発信する形で行った。年度後半には、出前講座が再開し、2地区での開催に講師を派遣し、延べ28名の方に参加いただいた。

(3) 内部監査によるサービス管理

内部経理監査(前期・後期)及び内部事業監査(8事業16施設)は、一部日程の変更を強いられたが、1年を通して計画した内部監査はほぼ実施できた。内部事業監査では、2事業6施設に対して、改善報告を求める指摘を行った。監査結果を翌月の事業運営会議で説明し、改善事項等を指示した。また、半期毎にその期の実施状況、指摘事項や改善計画等を法人監査会に報告した。

(4) 職員の能力開発と人材確保・離職防止対策

キャリア採用者が前年に比べ少なく、新採用職員研修の実施回数が減少したが、専修学校等の新卒採用職員向けのオンライン研修(2名、延14回受講)は、計画通り全日程の受講を完了した。課長職を中心としたオンライン研修を昨年度から継続し、各部署内で研修・講習に活用を図った。

各種就職説明会に積極的に参加し、ハローワーク妙高での説明会を隔月で開催した。3月上旬に特養4施設での施設見学・就職説明会を開催し、その時期に合わせたポスティングを活用した求人広告チラシの配布を行った。

4. 事業運営状況

(1) 介護老人福祉施設

事業全体で、平均介護度は変わらず、稼働率は 2.2% 低下したものの、ベースアップ加算等もあり事業活動収入は 0.4% 増加した。全室個室のゆきのみやとみのりの丘中郷の実績は良好だったものの、多床室中心のみなかみの里と名香山苑では、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことや、近隣の病院や施設で頻発した新型コロナウイルス感染症の影響で入所が滞ったことに加え、みなかみの里で長期入院が多発し、入院日数が前年度より 1,006 日増加したことが、事業全体の稼働率に影響した。事業運営面では、新たなモニター付コールシステムの導入や見守りセンサー等の活用により、介護事故の早期発見・早期対応及び職員の負担軽減に努めた。今後とも新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底と事業継続の両立を図る取り組みを継続するとともに、テクノロジー等を活用したサービスの質向上と事業運営の効率化を進めていく必要がある。

施設名	みなかみの里	名香山苑	ゆきのみや	みのりの丘中郷
定員	100人 (100人)	100人 (100人)	18人 (18人)	29人 (29人)
稼働率	93.9% (96.7%)	93.1% (96.1%)	95.8% (94.4%)	99.1% (98.7%)
平均介護度	4.2 (4.2)	4.3 (4.3)	4.5 (4.4)	4.2 (4.3)
事業種収入	428,416千円 (429,054千円)	430,055千円 (431,101千円)	95,881千円 (92,785千円)	159,301千円 (156,103千円)

()は前年度実績 *以下同様

(2) 短期入所生活介護

事業全体で、平均介護度は変わらなかったが、稼働率が 2.4% 低下したため、事業活動収入は 1.9% 減少した。名香山苑では、空床型短期入所の利用が前年度より 139 日増える等実績は良好だったものの、ケアハートみなかみで、新型コロナウイルス感染症による新規利用の一時休止や利用自粛等により稼働率が 5.9% 低下したことが、事業全体の実績に大きく影響した。事業運営面では、新たなモニター付コールシステムを活用し、介護事故の早期発見・早期対応に努めた他、記録システムを活用した業務日誌や個々のケース記録等の作成を進め、業務の効率化を図った。今後とも新型コロナウイルス感染症対策の徹底と事業継続の両立を図る取り組みを行い、利用者の安定確保に努めていく必要がある。

施設名	ケアハートみなかみ	名香山苑
定員	33人 (33人)	22人 (22人)
稼働率	82.7% (88.6%)	90.1% (87.3%)
平均介護度	2.9 (2.9)	2.8 (2.8)
事業種収入	119,001千円 (126,833千円)	83,149千円 (79,159千円)

(3) 通所介護

事業全体で、平均介護度が 0.1 ポイント上がったものの、稼働率が 3.7% 低下したため、事業活動収入は 3.7% 減少した。特にみなかみの里とえんじゅの郷では、事業所内で新型コロナウイルス感染症が発生したことによる事業の一時休止に加え、近隣地域での感染拡大が、利用の中止や自粛につながる等実績低下が顕著となった。事業運営面では、記録システムを活用した業務日誌や連絡帳等の作成を進め、業務の効率化を図った。また、専門職による個別機能訓練が介護支援専門員等から高い評価を受け、新規利用者の大半が機能訓練を希望する状況となったため、訓練計画が共通している方への小集団訓練や、通信

機器のレクリエーションメニュー等を使った訓練の充実を図った。今後は、利用者ニーズに沿ったサービス提供を行うとともに、地域の人口動態や稼働状況等に合わせた事業構造の見直しやスリム化を図り、稼働率の向上と効率的な事業運営を進めていく必要がある。

施設名	みなかみの里	えんじゅの郷	妙高の里	名香山苑
定員	30人 (30人)	30人 (30人)	32人 (32人)	35人 (35人)
稼働率	72.5% (81.5%)	72.0% (77.3%)	73.7% (73.3%)	84.5% (85.9%)
平均介護度	2.0 (2.0)	1.8 (1.8)	2.5 (2.4)	1.7 (1.7)
事業種収入	73,160千円 (79,871千円)	63,684千円 (67,636千円)	73,792千円 (74,334千円)	85,343千円 (85,614千円)

(4)訪問介護

利用件数は、1日平均1.2件増加し、事業活動収入も10.8%増加した。新型コロナウイルス感染症関連によるキャンセル等もあったが、居宅介護支援事業所への訪問可能な曜日・時間等の空き情報の提供や利用調整をこまめに行ったことが実績向上につながった。事業運営面では、介護記録システムを活用した記録業務や訪問管理の効率化を進め、訪問時間の確保や職員の負担軽減につなげた。

施設名	ヘルパーステーション北条
件数	153件/日 (14.1件/日)
平均介護度	1.2 (1.1)
事業種収入	21,163千円 (19,102千円)

(5)居宅介護支援

事業全体で、平均介護度が0.1ポイント下がったものの、利用件数は月平均9.5件増加したため、事業活動収入は1.6%増加した。施設入所や死亡者数が増えているため、契約解除も多かったが、地域の介護支援専門員数が減少していることから、みなかみの里・名香山苑ともに解除を上回る新規依頼があり、実績向上につながった。事業運営面では、新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者のサービス調整に努めた他、法人共通パンフレットを活用した営業活動や、法人内の小規模多機能への利用者紹介等を通じて法人サービスの連携の要としての役割を遂行した。

施設名	みなかみの里	名香山苑
件数	216.3件/月 (213.8件/月)	209.5件/月 (202.5件/月)
平均介護度	1.7 (1.7)	1.6 (1.7)
事業種収入	34,073千円 (33,924千円)	32,008千円 (31,089千円)

(6)小規模多機能型居宅介護

事業全体で、平均介護度は0.8ポイント下がったものの、稼働率が0.9%上がったことに加え、厚生労働大臣が定める特別地域の加算に該当したこともあり、事業活動収入は2.7%増加した。事業運営面では、8/22(月)運営協議で決定した 本体・サテライト事業所の連携強化、居宅支援課を交えた連絡調整会議の開催、各事業の特色を周知するためのパンフレットの作成・活用に取り組み、居宅支援課からの利用者の紹介が増える等の成果が見られた。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、施設内で

のレクリエーションや創作活動の充実を図り、利用者の心身の機能維持や気分転換を図った。今後とも～の対策を継続するとともに、地域の人口動態や稼働状況等に合わせた事業構造の見直しやスリム化を行う等効率的な事業運営を進めていく必要がある。

施設名	ほのぼの北条	ほのぼの宮内	ほのぼの中郷
定員	18人 (18人)	25人 (25人)	29人 (29人)
稼働率	81.7% (81.9%)	73.8% (78.6%)	80.7% (74.3%)
平均介護度	1.7 (2.1)	1.8 (2.0)	1.6 (1.8)
事業種加入	36,525千円 (38,810千円)	53,334千円 (55,270千円)	64,227千円 (55,978千円)

(7)認知症対応型共同生活介護

10月に事業所内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したが、稼働率・平均介護度ともに前年度同様の高い水準を維持するとともに、9月から看護職員を1名増員し、医療連携体制加算の算定を開始したため、事業活動収入は4.4%増加した。事業運営面では、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会中止や地域交流活動の縮小を余儀なくされたが、感染対策を講じた上で、施設内行事やレクリエーションの充実を図るとともに、家族に利用者の日常生活の様子を手紙や写真で定期報告する等利用者と家族をつなぐ取り組みを継続した。

施設名	グループホームあすなる
定員	18人 (18人)
稼働率	99.1% (99.1%)
平均介護度	2.3 (2.3)
事業種加入	87,873千円 (84,158千円)

(8)有料老人ホーム

稼働率が5.7%上がったため、事業活動収入は7.2%増加した。共通パンフレットを活用した営業活動や、法人サービスとの連携強化を図り、常に2名程度の待機者を確保したことが実績向上につながった。事業運営面では、生活相談員による相談援助の強化や法人サービスとの連携による、入居者に合った在宅サービスの利用と住み替えの提案を行った。

施設名	あっとほーむ北条
定員	20人 (20人)
稼働率	98.2% (92.5%)
平均介護度	-
事業種加入	33,386千円 (31,146千円)

(9)委託事業

妙高市高齢者生活支援センター事業については、近隣のケアハウスが事業を廃止したこともあり、12月から4月までの5ヵ月間で、近年では最も多い10名の入居があった。年間を通じて、施設・設備の保全と施設内外の清掃を徹底するとともに、入居期間中は快適な生活環境の維持や入居者の健康状態の把握に

努めた。

(10)事故及び感染症の発生状況と対策

事故については、法人全体で前年度から4件増加し34件発生した。内訳は、骨折16件、誤薬7件、誤嚥2件、外傷2件、打撲1件、車両4件、その他2件だった。3大事故としている骨折・誤薬・車両のうち、車両事故は、前年度から2件減少したが、骨折事故は4件、誤薬事故は1件増加した。特に骨折事故の6割以上が特別養護老人ホームで発生しており、入所者の平均介護度が高まり、骨が脆くなっていることが原因と推測される骨折が増えていることに加え、欠員補充のための職員の入替わりが多くなったことが影響していると考えられる。今後は、介護職員の意識改革やスキルアップを図るとともに、機能・栄養・看護等多職種による予防的なアプローチや、新たなモニター付コールシステムを活用し、介護事故及びそのリスクの早期発見・早期対応を強化していく必要がある。

感染症については、新型コロナウイルス感染症のクラスターが3施設で発生した。7月にみなかみの里特養で入所者11名(入院3名)・職員12名、10月にグループホームあすなろで入居者13名・職員7名、12月に名香山苑特養で入所者41名・職員18名が感染した。その他の施設・事業所でも新型コロナウイルス感染症が頻発し、事業運営のみならず稼働率にも大きく影響した。一方で感染症対策を徹底したことにより、例年発生するインフルエンザ・ノロウイルス等の感染症の発生は抑えられた。今後、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行された場合においても、新型コロナウイルスは存在し続けるため、施設・事業所内に新型コロナウイルス感染症を持ち込まない・拡げないための基本的な感染対策を継続するとともに、新たな社会の動きに対応した事業運営を検討していく必要がある。

(11)苦情の状況

苦情については、名香山苑の居宅介護支援事業所で1件発生した。内容は、4月に担当介護支援専門員が、利用者の家族に新型コロナウイルス感染症の疑いがあるという情報を、家族の了解を得ずにサービス事業所に伝えたことに対して「信用性が欠ける。再度、個人情報の取り扱いを徹底してほしい」との苦情を受け付け、苦情解決第三者委員及び妙高市福祉介護課に報告した。家族からの「家族等の新型コロナウイルス感染症情報を他事業所から報告を受けたら、まず、家族へ事実確認し、しっかりと家族と打ち合わせをして欲しい」という要望に対して、このとおり実施するとともに、事業所内で情報共有し再発防止を徹底する等の改善対策を書面で回答し、了承を得ている。

< 特別養護老人ホームみなかみの里 / 介護老人福祉施設事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>退所から入所までの期間については、要介護度4以上の方への事前面接の実施や、待機者の現況確認など実施したが、施設内外の新型コロナウイルス感染症の影響で入所日が延期となるケースが増加し、平均空床日数が14.4日となり目標達成できなかった。</p> <p>令和元年度と比較して昨年度42%減った肺炎による入院が、今年度は令和元年度と同水準に戻ってしまった。研修や入院対策会議等、肺炎を減らす取り組みは継続していたがうまく結びつかず、結果的に稼働率が低下した。</p> <p>介護ロボット関係では、1月に見守りコールシステムを導入し、夜間の見守りや事故原因の調査に活用した。また、オンラインを使用した新たな研修体制については順調に実施できており、職員の学習意欲の向上とともに、負担軽減につながった。</p>			
	目標	項目	目標	実績
		定員	100人	100人
		稼働率(内空床短期)	96.5%(0.5%)	93.9%(0.3%)
		平均介護度	4.2	4.2
事業活動収入		434,436千円	428,416千円	
事業運営目標		実績		
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み 空床発生時の速やかな対応(空床日数7日以内)</p>		<p>入所候補者の選定は概ねできていたが、施設内外の新型コロナウイルス感染症の影響で入所日が延期となるケースが増加したことで、平均空床日数が14.4日となり目標達成できなかった。</p>		
<p>2. 多職種協働による入院日数の削減 入院対策会議による入院原因の分析・対策の実行</p> <p>誤嚥性肺炎の予防を目的とした口腔ケアの充実及び研修会の開催</p>		<p>入院対策会議を計4回開催した。イオン水を使用した水分補給に関する取り組みなどを実施したが、入院者の減少には結びつかなかった。けいなん病院のワーカーと意見交換を実施した。</p> <p>歯科衛生士による継続的な口腔ケアを実施した。オンラインにて2回の研修会を実施した。</p>		
<p>3. 生活相談員業務の見直しや入所手続きの迅速化による空床日数の削減 要介護度4以上の新規申込者に対する事前面接の実施 既存の申込者全ての現況の確認</p>		<p>申し込みのあった要介護度4以上の方については情報収集を行い、事前面接を実施した。</p> <p>待機者把握のために定期的に現況確認を行った。特に上位の方については法人内で情報共有した。</p>		
<p>4. 人権尊重と利用者本位の確かな介護の提供 身体拘束や虐待防止に関する自己チェック等の実施や研修会の開催 認知症介護実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修の受講(各1名)</p>		<p>オンラインにて研修を年2回実施した。自己チェックについては来年度の実施とした。</p> <p>認知症介護基礎研修、認知症介護実践者研修、認知症介護リーダー研修を受講した。(各1名)</p>		

事業運営目標	実績
質の高いケアマネジメントの実践を目指し、法人内特養において四半期に一度検討会を実施	5/16,9/2,11/14の年3回開催し、アセスメント書式の改定等を実施した。
<p>5.科学的介護の推進と業務の効率化</p> <p>L I F Eのフィードバックに基づく課題分析のケアへの反映</p> <p>オンライン研修を使用した新たな研修体制作り</p> <p>新たに導入するコールシステムや介護ロボットを活用した業務内容の見直し</p>	<p>L I F Eのフィードバックの内容が個別ではなく、ケアへの反映は行えていない。</p> <p>法定研修を全てオンラインで実施した。進捗状況の把握や学習の振り返りを行うことで習熟の管理を行った。職員の学習意欲の向上とともに、負担軽減につながった。</p> <p>1月にコールシステムを導入し運用を開始した。今後、本格的な運用に向けて介護ロボットの活用も含め業務内容の検討を行う。</p>
<p>6.感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践</p> <p>ボランティアや地域との交流について、新たな形の検討・実践</p> <p>新たに設置した面会室の活用</p> <p>広報誌やブログを充実させ、積極的な情報発信への取り組み。</p>	<p>利用者と直接関わらない形での体交用枕カバーの裁縫ボランティアを募集し、応募のあった方をお願いすることができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の発生期間を除いて、活用した。家族には積極的に面会を促し交流した。</p> <p>ブログについては特養で49回の更新を行い、生活の様子等情報発信に取り組んだ。</p>
<p>7.5S活動を通じた職員のエコ意識の醸成と業務の効率化によるコストの削減</p> <p>I C T化の推進による、回覧文書の削減・多職種による情報共有の促進</p>	<p>複数のパソコンで活用できる共有フォルダを使用し、多職種での記録の作成や回覧をよりスムーズにすることができた。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	12件	0件	12件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

<在宅複合型施設ケアハートみなかみ / 短期入所生活介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>年間を通じ、新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けた。新規受入れの中断や他事業所での発生等で稼働を大きく落とすこととなってしまった。越冬時期では月初稼働率を高い状態に戻すことができたが、体調不良や急な入院等で目標稼働の達成に至ることができなかった。感染対策により、施設内でのクラスター発生は防止することができた。</p> <p>人員不足の状況下の中で、記録システム等のICTの利活用で業務内容を整理し、効率的且つ効果的に実施できるように事業所別会議等で検討・検証の取り組みを継続した。</p> <p>個別機能訓練は事業所の「売り」として、居宅介護支援事業所に定着してきた。介護力検討チームの取り組みで、サービス提供の安定化を図ることができた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	33人	33人
	稼働率	88.2%	82.7%
	平均介護度	2.9	2.9
	事業活動収入	127,461千円	119,001千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>予約システム変更に合わせて、ホームページ等による空床情報の共有化</p> <p>看護体制加算 ・ (口)の算定に向けた適切な介護度への変更提案の実施</p>		<p>新予約システム構築が終了し、データ移行を行ったがホームページでの空床情報発信までは至らなかった。</p> <p>状態変化に合わせて介護支援専門員等へ情報提供及び変更提案を行ったが、介護度は上がり加算算定には至らなかった。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>月初の予約率を目標稼働率 + 5%以上に確保</p> <p>ネットワークシステムを活用した居宅介護支援事業所との効率的なサービス調整</p>		<p>第1～3四半期では新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、平均 - 1.3%であった。第4四半期では平均 + 4.9%まで上げたものの、目標稼働率を達成するに至らなかった。</p> <p>ネットワークシステムで介護支援専門員と個々に連絡調整を行い、相互に効率的な予約調整を実施することができた。</p>	
<p>3. 法人共通パンフレットを活用した営業活動による長期利用者の安定的確保</p> <p>法人共通パンフレットを活用した、法人内サービスの相互利用と新規利用者の獲得</p> <p>特養と入所待機者の情報共有による長期利用希望者の利用促進</p>		<p>契約時等にパンフレットの配布・説明を行ったが、新規利用等にはつながった事例はなかった。</p> <p>情報共有で介護支援専門員等に利用促進を行ったが、入院加療中等の理由から利用につながった事例はなかった。</p>	

事業運営目標	実績
4. 通所介護事業との個別機能訓練の連動と法人サービス間のつながりの強化 ネットワークシステム等による情報共有と効果的且つ効率的な訓練の実施	記録システム等の利活用で情報共有がスムーズとなり、効果的に実施でき、希望者増加につながった。
5. 行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ 多職種連携による医療依存度の高い方の受け入れ 介護力検討チームを活用した対応力向上による困難ケースの受け入れ促進	契約 55 件/年で医療依存度の高い方(退院直後や医療処置のある方等)と判断した方は計 11 件。うち 2 名は退院できず利用につながらなかった。 不適切ケア改善チームでは、虐待につながるケアを改善した。移乗方法検討チームでは、福祉用具を活用し、ノーリフトに基づくケアを構築した。
6. 情報の共有化と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用 記録システムを活用したペーパーレス化(ケース日誌・S T 表)の促進 サービス担当者会議等における記録システムを活用した情報提供 新たに導入するコールシステム等を活用した業務内容の見直し	実務で検討を進め、業務日誌及び補足版は情報共有で必要と判断した。S T 表は必要な情報が記録システムと合わずに継続使用となった。 記録システムの活用で自事業所だけでなく、他事業所の記録と比較したデータ等を情報提供できた。 夜間帯(特に一人対応時)の巡回業務において、効率的に利用者対応にあたることができた。
7. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供 基本的な感染対策の徹底と、感染症発生時の研修及び訓練の実施(年 2 回)	6/29、11/30 に研修及び訓練を実施した。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	2 件	3 件	5 件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0 件	

<みなかみの里ディ・サービスセンター / 通所介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>新規契約 31 件、契約解除 19 件と実人数は増加したが、解除者の利用回数を上回ることができず目標には届かなかった。また、新規利用者の平均介護度が 1.7 と低く、通常規模型の平均介護度が低下傾向であった。新規依頼者の機能訓練希望者の割合は 3 割程度であった。</p> <p>感染対策を図ってはいたが、新型コロナウイルス感染症まん延による利用自粛や営業停止があり、大幅な実績低下となった。年度途中で職員の欠員があり、中重度者ケア体制加算算定中止の懸念があったが、パート職員から短時間常勤への転向、稼働の低下等により、影響は出なかった。</p> <p>記録システムとタブレットの活用により、記録業務が大幅に効率化され、記録のペーパーレス化も進んだ。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	30 人	30 人
	稼働率	82.6%	72.5%
	平均介護度	2.0	2.0
	事業活動収入	82,834 千円	73,160 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>生活相談員による居宅介護支援事業所訪問の充実と事業所の認知度を深める配布物による PR</p> <p>認知症対応型の利用促進への取り組みと、利用回数の増加に向けた提案</p>		<p>居宅訪問時には、レクリエーション等活動予定表の配布とお試し利用を PR した。令和 4 年度は 19 件のお試し利用依頼があり、15 名の方が新規契約となった。</p> <p>認知症対応型会議にて利用促進、移行について検討を行い、令和 4 年度は 5 名の方が移行となった。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>予約段階で 90% 以上の予約を確保</p> <p>キャンセルの可能性が高い方の重点的な予約管理</p>		<p>令和 4 年度の月初平均予約率は 83.9% であった。</p> <p>頻繁にキャンセルを入れる方の利用日を把握し、月初予約時に予約調整を行った。</p>	
<p>3. 通信システムを活用した日課のプログラム化と利用者満足度の向上</p> <p>通信システムを活用した利用者満足度の向上と業務の効率化</p>		<p>導入した事業所から情報収集し、費用対効果などを検討したが、令和 4 年度の導入は見送りとした。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業の強化と新規利用者の確保</p> <p>法人共通パンフレットを活用した法人内サービスの相互利用と新規利用者の獲得</p>		<p>4 月の居宅訪問時と新規契約時に共通パンフレットを配布し、短期入所等の紹介を行った。</p>	
<p>5. 短期入所と連動した機能訓練・栄養相談など多職種協働によるトータルサービスの提供</p> <p>ネットワークシステム等により情報共有と効果的且つ効率的な訓練の実施</p>		<p>記録システム等により、訓練内容等を短期入所課と共有し、日常生活動作の維持・向上が図れるよう連携し、継続的で効果的な機能訓練を推進した。</p>	

事業運営目標	実績
短期入所と連携し跳ね上げ式車椅子を活用した「ノーリフトケア」の実践による利用者の自立支援と介護職員の負担軽減	跳ね上げ式車椅子2台を購入し、機能訓練指導員と連携して対象ご利用者を選定し、移乗等の自立支援を行った。
6. ケアプランの質の向上と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用 記録システムを活用したケアプラン作成への移行	記録システムとタブレットとの連動により、記録業務の効率化を図った。ケアプランは記録システムを使用して模擬作成を行った。ケアプラン作成の移行には至っていないが、来年度のケアプランデータ連携システムと連動して移行を行うこととした。
7. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供 基本的な感染対策の徹底と、感染症発生時の研修及び訓練の実施(年2回)	パーティションの活用、消毒作業、換気等を実施し感染予防に努めた。6/27、10/21に感染症研修及び訓練を実施した。事業に影響を生じた感染としては、6月に職員1名、9月に職員1名、8月に利用者1名、10月に職員2名、11月に利用者6名、12月に利用者3名と職員3名、1月に利用者1名が新型コロナウイルス感染症を発症し、延べ11日間の事業中止が生じた。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	1件	1件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

<みなかみの里在宅介護支援センター / 居宅介護支援事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>施設入所や死去による契約解除の他、長期入院により給付管理につながらないケースが多かったが、それを上回る新規依頼が順調にあったことで、安定した給付管理数を維持することができた。</p> <p>サービスの質の向上のため、ケアマネジメントに係る研修を計画的に実施することで、職員個々のスキルアップにつなげることができた。</p> <p>法人共通パンフレットを用い、新規利用者や関係機関に配布した。地域に根差した幅広いサービスを網羅しているとの評価をいただき、法人の信頼度の高さを実感できた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	利用者数	212 人/月	216.3 人/月
	稼働率	-	-
	平均介護度	1.7	1.7
	事業活動収入	33,489 千円	34,073 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>民生委員との関係構築、総合相談による新規利用者確保の経路の確立(年 10 件)</p> <p>困難ケースへの適切なケアマネジメントの提供を目的とした個別年間計画の立案によるスキルアップの推進</p>		<p>法人共通パンフレットを用い営業活動を行った。家族紹介や他の居宅介護支援事業所からの紹介は累計で 17 件となった。</p> <p>研修計画に沿って研修を実施した。</p>	
<p>2. 地域包括支援センターとの連携やサービス調整機能の強化による新規利用者の積極的な受け入れ</p> <p>地域包括支援センターへの空き情報提供による介護給付の新規紹介依頼を促進</p>		<p>地域包括支援センターに向向く機会が多くあり、情報提供や相談などがスムーズに行えている。</p>	
<p>3. 介護と予防給付のバランス維持と、それぞれに合ったケアマネジメントの実施</p> <p>予防マネジメント件数の適正化(月 50 件以下)</p> <p>ケアマネジメントの一連の流れに沿った研修の実施(年 6 回)</p>		<p>年度を通して目標値を超えている(平均 54.3 件/月)介護から予防になるケースや居宅介護支援事業所指名でのケースもあり目標維持はできなかった。</p> <p>研修計画に沿って研修を実施した。(年 6 回)</p>	
<p>4. 法人共通パンフレットを活用した利用者と法人事業をつなぐ営業の強化</p> <p>新規利用の契約時における法人共通パンフレットを活用した法人サービス情報の提供</p>		<p>契約時にパンフレットを持参し説明した。地域に根差した幅広いサービスを網羅しているとの評価があった。</p>	

事業運営目標	実績
法人の在宅サービス利用及び法人の施設入所までの積極的な関わり強化	公正中立の立場で事業所選定に関する情報を伝えつつ、法人サービス利用についてのPRを行った。 【法人サービスへの紹介率】 ・新規利用者と通所介護・短期入所・訪問介護利用者：63.0%(46名中29名) ・特養への移行者：56.3%(16名中9名) ・小規模多機能への移行者：66.7%(3名中2名)
5. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なケアマネジメントの実践 基本的感染対策を徹底した感染症のまん延防止 オンラインを活用した研修の開催や参加の推進	事業所内で職員2名が新型コロナウイルス感染症に感染したが、他への感染は防止できた。日ごろより基本的感染対策を順守した。 オンラインで参加できる外部研修に積極的に参加した。
6. 居宅介護支援事業所選定時の指名件数増に向けた在宅介護支援センターの相談機能の強化 広報誌等を活用した特定事業所としての取り組みの発信と相談しやすい事業所であることのPR 事業所として統一した対応をするための総合相談受付時のフローチャートを作成	訪問の際は広報誌やチラシを持参し情報提供するほか、ブログ発信を行いPRに努めた。 フローチャートを作成し活用を開始した。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	-

<小規模多機能型居宅介護事業所のほのぼの北条 / 小規模多機能型居宅介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>今年度は、主に共通パンフレットを用いて、年 21 件地域包括支援センター等へ行く等、営業活動に力を入れた。新規 12 件あったが、解除も 12 件あり、結果として稼働率・収入ともに目標を下回った。また、本体施設のほのぼの宮内と泊り・訪問の割合を調整し、連携が強化できた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた事業活動の変更や中止・自粛が多かったが、感染予防対策を行いながらサービスの質の維持・向上に努めた。</p> <p>職員育成は、研修計画に基づき全員が計画通り全研修を実施した。無資格のパート職員「認知症介護基礎研修」の受講終了等、職員の資質の向上の取り組みができた。</p>		
目標	項 目	目 標	実 績
	定 員	18 人	18 人
	稼働率	90.0%	81.7%
	平均介護度	2.0	1.7
	事業活動収入	47,618 千円	36,525 千円
事業運営目標		実 績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等に P R、空き情報の提供(年 15 回)</p> <p>訪問体制強化加算の継続算定(月 200 件以上)</p>		<p>地域包括支援センター等に伺い、空き情報等の情報提供を行った。(年 21 回)</p> <p>訪問体制強化加算を月平均 393 件算定した。</p>	
<p>2. 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携強化による新規利用者の積極的な受け入れ</p> <p>地域包括支援センター・居宅介護支援事業所への事業所の P R の実施</p>		<p>月 2 回のペースで地域包括支援センター等へ訪問し、新規問合せ 13 件内、11 件の利用につながった。</p>	
<p>3. 医療職と連携した行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ</p> <p>かかりつけ医、専門医との連携による生活継続の支援</p> <p>認知症や精神疾患に対するケアを学ぶことによる対応力の強化</p>		<p>今年度、該当者なし</p> <p>8 月認知症研修、11 月認知症の事例検討を実施した。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業活動と認知度を高める取り組みの強化</p> <p>法人共通パンフレットを活用した居宅介護支援事業所等への事業の特色の P R (計 15 回)</p>		<p>法人共通パンフレットを活用し、地域包括支援センター等への訪問時に P R した。(計 21 回)</p>	
<p>5. 利用者ニーズや事業所の特色を活かした柔軟かつ効率的な事業運営</p> <p>本体事業所と連携した柔軟なサービス提供</p> <p>人材育成のための外部研修や内部研修への参加(年 4 名)</p>		<p>本体への泊りは年 17 日分対応した。</p> <p>オンライン開催を含め外部研修に年 3 回参加した。</p>	

事業運営目標	実績
研修や評価を行い、ケアの質・サービスの質向上を目指す 介護技術研修会・認知症ケア学習会の開催(年1回) 自己評価及び外部評価によるサービスの見直し・改善(年2回)	介護技術研修年7回、認知症研修年2回実施した。 (入浴、緊急時対応、接遇、感染症、虐待防止、身体拘束廃止、事故防止)また、9月自己評価、1月・3月外部評価「地域かかわりシート」、「サービス評価」「総括表」を実施した。
6.感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践 基本的な感染対策を講じた上での実施可能な地域活動への参加と訪問活動等の受け入れ	5月クリーンパートナー活動を実施した。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

<ヘルパーステーション北条 / 訪問介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>1日あたり平均 15.3 件と年間の目標稼働率・収入には届かなかったが、居宅介護支援事業所より問い合わせがあった際、受け入れが難しい場合でも速やかに訪問可能な曜日・時間帯を提案し、新規 34 件・解除 28 件と新規利用者を多く受け入れることができた。</p> <p>ケアプラン・モニタリング・業務日誌、個人ケースについて、すべて記録システムへ移行することで、記録業務の簡素化・効率化を行った。</p> <p>移動範囲が広いとため、訪問ルートを検討・固定して訪問予定を組むことで移動時間のロスを減らすことができた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	件数	15.6 件 / 日	15.3 件 / 日
	平均介護度	1.3	1.2
	事業活動収入	21,752 千円	21,163 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>居宅介護支援事業所に訪問し、訪問が可能な曜日、時間等の情報を提供</p>		<p>居宅介護支援事業所から問い合わせがあったときに、速やかに対応し訪問するよう対応した。</p>	
<p>2. 介護保険・保険外サービスを組み合わせた利便性の高いサービスの提供</p> <p>個別ニーズに合わせた保険外サービスの提供</p>		<p>保険外サービスのニーズがなく今年度実績なし。</p>	
<p>3. 業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用と訪問件数の拡大</p> <p>記録システムの活用の検討</p> <p>サービス担当者会議やモニタリングを通じた適正な訪問回数の提案</p>		<p>ケアプラン、モニタリング、業務日誌、個人ケースとすべて記録システムに移行が完了した。</p> <p>担当者会議にて、体調変化等により訪問回数等の見直しを提案した。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業活動の強化と新規利用者の確保</p> <p>居宅介護支援事業所等からの新規依頼に迅速に対応</p> <p>サービス提供責任者の説明力、提案力の強化</p>		<p>曜日・時間帯で受け入れが難しい時は、別な曜日・時間帯の提案を行った。</p> <p>サービス提供責任者 3 名で研修を実施した。契約等は 2 名で指導しながら行った。</p>	
<p>5. 二つの出張所の機能の確立と効率的で利便性の高い事業運営</p> <p>多様なニーズに対応するための職員個々のスキルアップ</p> <p>広い移動範囲に対応するための効率の良い訪問ルートの検討</p> <p>ケアプランと手順書の見直しによるサービス等の標準化</p>		<p>訪問時の支援の疑問や迷い等は、その都度サービス提供責任者等に報告・相談し、情報共有を強化した。</p> <p>移動時間のロスが少ない訪問ルートを検討・固定し実施した。</p> <p>事業所別会議で、認定更新・3ヶ月毎に合わせて手順書や支援時間の見直しを行った。</p>	

事業運営目標	実績
6. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供 感染症の標準予防策と感染経路別予防策の研修会の実施	ガウンテクニック研修、業務継続計画の研修、訪問先での対応等の研修を実施した。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	1件	1件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 有料老人ホームあっとほーむ北条 / 有料老人ホーム事業 >

1. 事業実績

事業 総括	共通パンフレットを活用した営業活動を実施し、常に2名程度の待機者を確保した。また、空床日数が14日で目標達成した他、入居が退居を上回ったため稼働率・収入とも目標を達成した。 法人サービスと連携しながら入居者にあった在宅サービスの利用を勧め、居宅介護支援9名・ほのぼの北条4名・ほのぼの宮内1名・通所介護6名・訪問介護9名の方に法人内のサービスを利用していただくことができた。		
目標	項目	目標	実績
	定員	20人	20人
	稼働率	95.0%	98.2%
	平均介護度		
	事業活動収入	31,129千円	33,386千円
事業運営目標		実績	
1. 稼働目標達成のための取り組み 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等への空き情報の提供 待機者の確保と空床発生時の速やかな対応(空床日数30日以内)		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等に空き情報を提供し、入居申し込みを依頼した。 常に2名程度の待機者を確保し、空床日数は平均で14日となった。	
2. 共通パンフレットやホームページを活用した新たな営業手法による入居待機者の安定的な確保 上越・妙高市の地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等への営業活動の実施(年3回)		共通パンフレットを活用した営業活動を、上越市1回、妙高市7回実施した。	
3. 入居者の法人サービス利用率を高めるための法人サービスとの連動性の強化 各法人サービスとの連携強化による入所者にあった在宅サービス利用と住み替えの提案		入居者20名中19名が介護サービス利用者で、法人サービスは、居宅支援9名、ほのぼの北条4名、宮内1名、通所介護6名、訪問介護9名が利用した。	
4. 生活相談員業務の見直しと法人サービスを活用した適正かつ効率的な事業運営への転換 待機者確保のための入所待機者リストの作成と定期的な現況確認の実施 調剤薬局等と連携した服薬管理業務の見直しの検討		2名の待機者を確保し、待機者リストを作成した。 利用者毎に主治医と薬局が異なり、管理業務の統一はできなかった。	

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	1件	0件	1件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 地域密着型介護老人福祉施設ゆきのみや / 介護老人福祉施設事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>年間の入院は13件、入院日数は238日となり稼働率は低迷した。入退所は5件でそのうち2名は法人内事業所からの入所となっており、他事業所との連携に努めながら入所準備を進めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防により全体で行う研修会を計画できず、オンライン研修に切り替え研修を行った。研修後は個々にレポートを作成してもらい理解度を確認した。</p> <p>下期は職員の退職・体調不調で欠員が生じたため、介護業務を見直し、スリム化して介護業務を行った。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	18人	18人
	稼働率	98.5%	95.8%
	平均介護度	4.3	4.5
	事業活動収入	96,906千円	95,881千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>入所までの期間を7日間以内にするため、事前に入所候補者2名を選定</p> <p>法人内他事業所との連携でスムーズな入所の支援</p> <p>入所待機者の確保のため、居宅介護支援事業所、病院等への定期的な訪問</p>		<p>年間で入所5件、退所5件あり、空床期間は42日で、入所までの平均空床日数は8.4日となった。</p> <p>法人内事業所からの入所申し込みは年10件。</p> <p>毎月病院に訪問し、パンフレットと料金表を補充配布した。</p>	
<p>2. 多職種協働による入院日数の削減</p> <p>サービス担当者会議での看取りの意向等の確認と対応の実施</p> <p>入院理由の分析と入院日数削減に向けた多職種協働でのケア方法の確認、見直し</p>		<p>サービス担当者会議にて看取りの意向確認し、1件看取りを行った。</p> <p>入退院時に病院の担当者と連携を取り、事業所別会議やユニット会議にて多職種でケアを見直した。</p>	
<p>3. 生活相談員業務の見直しや入所手続きの迅速化による空床日数の削減</p> <p>入所待機者の入所手続き等のスムーズ化</p>		<p>入所検討会議、つなぎ・つながる会議を活用し情報収集に努め、スムーズに入所していただけるよう準備した。</p>	
<p>4. 人権尊重と利用者本位の確かな介護の提供</p> <p>虐待防止、身体拘束廃止、認知症ケアに関する研修の実施(年2回)</p> <p>質の高いケアマネジメントの実践を目指した研修会と法人内特養における検討会の実施</p> <p>新しい個浴槽を活用した個別の入浴方法の検討</p>		<p>6月と3月に研修会を実施した。(年2回)</p> <p>5月に研修会を実施、5/1, 9/2, 11/14に検討会を実施し、アセスメント書式の改定等を行った。</p> <p>6名の方が個浴槽を使用して入浴する等、一人ひとりに合わせた入浴方法を検討した。</p>	
<p>5. 科学的介護の推進と業務の効率化</p> <p>L I F Eのフィードバックに基づいた介護技術研修の実施</p>		<p>事業所別会議にてL I F Eのフィードバックの内容を周知した。</p>	

事業運営目標	実績
L I F E に準じた個別の状態に合わせた介護の提供	排泄支援、褥瘡予防、口腔衛生管理、栄養管理の観点で、L E F E のチェック項目を確認しながら見直した。
6. 感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践 感染状況に合わせた面会が行えるような環境整備の実施 季節に応じたユニット活動を計画し、楽しめる活動の実践 感染状況を勘案しながらの地域の行事・環境整備活動への参加 感染状況に合わせたボランティアの受け入れ 感染症予防研修の実施(年2回)	オンライン、窓越しの面会が行えるよう環境を整え、年4件のオンラインリモート面会を実施した。毎月誕生会に合わせユニット活動を実施。ユニット内で8月夏祭り、12月クリスマス会を実施した。職員による園庭草取りを実施した。 10月家族ボランティア活動を実施。外窓清掃を行った。 6月感染症予防研修。9月ガウンテクニック・ゾーニング研修を実施した。
7. 5 S 活動を通じた職員のエコ意識の醸成と業務の効率化によるコストの削減 点検、修繕、整理整頓による設備、備品の維持管理 記録業務の効率化と情報のペーパーレス化の検討と推進	毎月、福祉用具、浴槽や洗濯機器等点検を実施した。ロボット掃除機1台導入し効率化を図った。個人ケース日誌のペーパーレス化を実施した。
8. 暮らしの場としての生活支援のため関係機関等との積極的な連携(＊) 在宅の介護支援専門員への初回サービス担当者会議出席依頼と情報収集	初回サービス担当者会議への参加実績は2件あった。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 小規模多機能型居宅介護事業所のほの宮内 / 小規模多機能型居宅介護事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>年度登録 19 名からスタートし、年間で新規と解約が 6 件ずつあり、利用実績としては年平均で 20 名であった。入退院も 7 名と多くあり、入院のなかった月は 2 ヶ月のみで、年間延べ 281 日分の入院があり稼働率低迷の大きな要因となった。</p> <p>事業としては新型コロナウイルス感染症の第 7 波と第 8 波が大きな影響となり、感染症対策のために思うように行事や活動ができなかった。職員及びその家族、利用者及びその家族において度々陽性者が出たが、事業所内での感染拡大等はなく年間通して通常営業は継続できた。</p> <p>職員育成については、感染症等の状況を見ながら、動画視聴による研修実施や認知症実践者研修への職員派遣、自主的な上級救命講習の受講などにより、職員の資質の向上に取り組んだ。</p>			
	目標	項目	目標	実績
		定員	25 人	25 人
		稼働率	84.0%	73.8%
		平均介護度	2.0	1.8
		事業活動収入	62,497 千円	53,334 千円
事業運営目標		実績		
1. 稼働目標達成のための取り組み 「泊り」「通い」のバランス調整と新規利用者の受け入れ ケアマネ広場等への積極的な参加 (年 4 回)		<p>年間で 6 名の新規利用者の受入れを行った。</p> <p>10 月と 2 月にオンラインにてケアマネ広場に参加した。(年 2 回)</p>		
2. 地域包括や居宅との連携強化による新規利用者の積極的な受け入れ 新規利用者を確保するため、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所への P R と連携強化		<p>法人共通・事業所パンフレット・広報誌を居宅介護支援事業所・病院・施設等(計 15 ヶ所)に配布した。</p>		
3. 医療職と連携した行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ 行動障害等があっても在宅での生活が継続できる支援の実施 認知症や精神疾患に対するケアの留意点等を学び、職員の対応力を強化		<p>随時、かかりつけの主治医と薬の調整など連携を図った。</p> <p>認知症介護実践者研修、認知症ケア、老人性うつもの研修を 3 回行った。</p>		
4. 共通パンフレットを活用した営業活動と認知度を高める取り組みの強化 法人共通パンフレットを活用した地域包括支援センター等への P R (計 15 回)		<p>居宅介護支援事業所・病院・老人保健施設等に累計 18 回訪問し、法人共通パンフレットを配布した。</p>		
5. 利用者ニーズや事業所の特色を活かした柔軟かつ効率的な事業運営 サテライト事業所と連携した泊り受け入れの強化 外部・内部研修の受講による職員育成(年 4 名)		<p>年間で北条からの宿泊は 18 泊分対応。訪問は北条での対応を強化した。</p> <p>認知症介護実践者研修に 1 名受講した。</p>		

事業運営目標	実績
研修や評価を行い、ケアの質・サービスの質向上を目指す 介護技術研修・認知症ケア研修の開催(年1回) 自己評価及び外部評価によるサービスの見直し・改善(年2回)	介護技術と認知症ケア研修を各年2回実施した。また、8月自己評価、12月運営推進委員より外部評価を実施した。
6.感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践 基本的な感染症対策を講じた上での地域活動への参加と訪問活動等の受け入れ	感染症対策を講じ、気候が良い時期は車窓ドライブと事業所内での季節行事等を行った。

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 地域密着型介護老人福祉施設みのりの丘中郷 / 介護老人福祉施設事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>年間を通して安定した稼働を維持することができ目標を達成できた。入院はなく、入退所は前年とほぼ同数であった。平均空床日数の目標値は達成できなかったが、前年より 2.3 日短縮することができた。退所者全員が施設での看取りを希望されたため、嘱託医と連携し適切に対応した。個別ケアの充実については、ユニット会議やケア検討会議を活用し、ケアの見直しや対応を検討した。また、第三者評価の受審や上越市運営指導で当施設の取り組みについて高評価を得た。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、屋台会食の開催や作品展への出展等の行事開催や地域交流に努めた。また、ボランティア団体とコロナ後の活動について意見交換を行った。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	29 人	29 人
	稼働率	99.0%	99.1%
	平均介護度	4.2	4.2
	事業活動収入	156,410 千円	159,301 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み ブログや広報誌を活用し、サービスの強みの発信 施設内の他事業所と連携を図り、情報の共有(月 2 回)</p>		<p>広報委員会でブログの随時更新、広報誌を年 4 回発行し、生活の様子等を情報発信した。 つなぎ・つながる会議を月 2 回開催し、入所候補者の情報交換を行い、ほのぼの中郷 1 名、えんじゅの郷 3 名が入所につながった。</p>	
<p>2. 多職種協働による入院日数の削減 速やかな退院に向け、嘱託医や受診している専門医との連携実施 歯科医師及び歯科衛生士と連携を図り、誤嚥性肺炎予防の実施</p>		<p>入退院なし。 協力歯科医院による歯科検診を実施した他、歯科衛生士による口腔ケアを毎月行い口腔衛生に努めた。</p>	
<p>3. 生活相談員業務の見直しや入所手続きの迅速化による空床日数の削減 空床日数 7 日以内を目指し、あらかじめ入所候補者を選定 既存の申込者全ての現況を確認し、申込者の整理の実施</p>		<p>家族や入所前施設・病院の都合、入所前の体調管理等が影響し、平均空床日数は 9.1 日となった。 上位の申込者の情報収集を行うとともに、入所検討委員会を通じ、入所待機者情報を管理した。</p>	
<p>4. 人権尊重と利用者本位の確かな介護の提供 適切なケアを提供するため、身体拘束廃止や虐待防止に関する研修会を開催。(年 2 回) 利用者及び家族の意向や要望についての聞き取り実施(月 1 回) ユニット会議やケア検討会議の実施(月 1 回) 質の高いケアマネジメントの実践を目指し、法人内特養において四半期に一度検討会を実施</p>		<p>4 月、10 月に身体拘束廃止研修。4 月に虐待防止研修を開催した。 利用者の要望は毎日のケアを通じ確認し、家族には、家庭連絡時や家族向けアンケートで確認した。毎月開催し情報の共有を図った。 ④5/16, 9/2, 11/14 の年 3 回開催し、アセスメント書式の改定等を実施した。</p>	

事業運営目標	実績
<p>5.科学的介護の推進と業務の効率化</p> <p>L I F E のフィードバックに基づいた課題分析を行い、ケアに反映</p> <p>より適切な介護機器の活用について検証(月1回)</p> <p>機能訓練や口腔、栄養など専門職との連携を図りながら、食事環境の改善</p> <p>介護用ベッドや車椅子などの設備機器について、計画的な入れ替えの実施</p>	<p>ユニット会議を活用し分析結果をケアに反映した。</p> <p>ケア検討会議を活用し、入所者の状態に合わせた機器の使用について、毎月検討を行った。</p> <p>歯科医院による口腔ケアや治療、栄養相談員との食事に関する相談を中心に、食事環境を検討した。</p> <p>姿勢保持のためのクッションなどを導入した。</p>
<p>6.感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践</p> <p>エコウォークに参加(年2回)</p> <p>ボランティアや地域との関わりについて、新たな形を検討し実践</p> <p>施設、利用者、地域とのつながりが持てるような取り組みの実施(年4回)</p> <p>困りごと相談所を定期的に開催(月1回) [~ は、みのりの丘全事業共通]</p>	<p>春は参加し近隣の清掃活動を行ったが、秋は、勤労連ボランティアの受け入れ日と重なったため参加できなかった。(年1回)</p> <p>ボランティア登録者にボランティア新聞を配布した。その際、ボランティアへの意欲や思いを確認しながら、次年度に向けての情報収集に努めた。</p> <p>作品展への出展等やボランティア団体との連絡等を行い、関係者とのつながり維持に努めた。</p> <p>困りごと相談所は、各事業所が協力しながら、月1回開催した。</p>
<p>7.5S活動を通じた職員のエコ意識の醸成と業務の効率化によるコスト削減</p> <p>事業所内環境を定期的に点検し、環境を整え業務を効率化(月1回)</p> <p>入浴設備や介護機器等が常に良い状態で使えるように、随時及び定期点検を徹底(月1回)</p>	<p>各ユニットに担当者を配置し、毎月事業所内を点検し、環境整備を行った。</p> <p>各ユニットに担当者を配置し、点検及び清掃を毎月実施した。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 小規模多機能型居宅介護事業所のほのぼの中郷 / 小規模多機能型居宅介護事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>上半期は新規・解除が多く、稼働が安定せず目標値を下回ったが、下半期は越冬希望の利用者に対して、泊まり中心のサービス調整を行い、稼働が安定し目標値を上回った。結果として、年間では上半期の稼働が影響し目標値には届かなかった。</p> <p>事業所の特性である柔軟なサービス提供を実践するために、個別研修計画に沿った施設内外の研修会への参加や内部・外部評価を受審することで、職員個々の知識技術の向上やサービスの見直しを行うことができた。</p> <p>事業所の特性をPRした営業活動を行うことで、地域ニーズの特徴(越冬利用、独居利用者に対する柔軟な訪問サービスなど)を有する新規利用者(越冬利用者5名・独居利用者2名・医療依存度が高い利用者1名)を数多く受け入れることができた。</p> <p>基本的な感染症対策の徹底や業務改善を実践することで、利用者の感染は0名であり、職員が感染した場合でもサービスを休止することなく、事業を継続することができた。地域交流については、国(県・市)の指針により、新たな取り組みを実践することはできなかった。</p>			
	目標	項目	目標	実績
		定員	29人	29人
		稼働率	82.0%	80.7%
平均介護度		1.8	1.6	
事業活動収入		66,803千円	64,227千円	
事業運営目標		実績		
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>介護度の高い方も積極的に受け入れ、稼働率を維持向上</p> <p>施設内他事業所と連携を図り情報の共有・通所介護課との連携強化(月2回)</p>		<p>介護度が高くサービス量を求める利用者に対して、泊まり中心のサービス調整を行うなど、稼働率の維持向上に努めた。</p> <p>つなぎ・つながる会議を月2回開催し、利用者の住み替えがスムーズにいくよう情報交換・連携を行った。特に通所介護課との連携を強化し、2名の受け入れにつながった。</p>		
<p>2. 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携強化による新規利用者の積極的な受け入れ登録利用の空き状況などを情報発信(月2回)</p> <p>新規の依頼があった時は、速やかに契約を実施入所待ちの長期の泊り利用について積極的な受け入れ実施</p>		<p>地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に対して、定期的に空き状況や待機者状況など情報発信を行った。(月2回)</p> <p>新規依頼は速やかに対応し契約することができた。入所待ち前提の新規利用者を積極的に受け入れた。住み替え実績は、みのり丘中郷1名、あすなる1名、他法人入所施設4名となった。</p>		

事業運営目標	実績
<p>3. 医療職と連携した行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ</p> <p>認知症専門医・医療職との連携を図り、積極的に受け入れ</p>	<p>日頃から地元病院の医師や地域包括支援センターとの連携を図り、医療依存度が高い利用者を退院後直接受け入れるなど、困難ケース等の受け入れを積極的に行った。</p>
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業活動と認知度を高める取り組みの強化</p> <p>法人共通パンフレットを活用し、事業についての説明や案内の実施(月2回)</p> <p>小規模多機能事業ならではの柔軟なサービス提供をPR</p> <p>看護体制加算を維持し、医療的ケアの充実をPR</p>	<p>営業活動時には、共通パンフレットを活用して、法人または事業所の特性を説明・PRした。</p> <p>営業活動時には、柔軟なサービス提供(半日の通い利用、夕方からの泊まり利用、安否確認のみの訪問など)を説明・PRした。</p> <p>営業活動時には、看護体制の充実(看護職員の同行訪問や病院への情報提供、24時間オンコール体制など)を説明・PRした。</p>
<p>5. 利用者ニーズや事業所の特色を活かした柔軟かつ効率的な事業運営</p> <p>柔軟なサービス提供の実践と泊り機能の活用の推進(宿泊率55%)</p> <p>自己評価や外部評価の受審によりサービス内容の見直しを実施(年2回)</p> <p>介護技術研修、認知症ケア研修及び検討会の開催(年8回)</p>	<p>柔軟なサービス提供(半日の通い利用、夕方からの泊まり利用、安否確認のみの訪問など)を実践した。</p> <p>累計宿泊率54.1%。</p> <p>内部、外部評価を受審し、サービス内容の見直しを行った。(年2回)</p> <p>介護技術研修(年4回)、認知症ケア研修及び検討会(年4回)を実施した。</p>
<p>6. 感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践</p> <p>事業所内環境を定期的に点検し環境整備、業務の効率化を検討(月1回)</p> <p>基本的な感染症策の徹底を継続し、利用者の安全確保を実施。</p>	<p>事業所別会議にて、環境整備活動(エアコンフィルター掃除など)や業務の効率化(業務手順の見直しなど)の検討を実施した。(月1回)</p> <p>感染予防を徹底し、利用者の新型コロナウイルス感染者は0名であった。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	2件	0件	2件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

<グループホームあすなる / 認知症対応型共同生活介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>入退所は2件であった。入院、新型コロナウイルス感染症の影響で退所後の平均空床期間は15日と目標達成には至らなかったが、全体的に安定した稼働となり、平均介護度とともに目標を達成することができた。</p> <p>医療連携体制加算取得にむけて看護職員体制やマニュアルを整備し9月より加算を取得した。看取り希望もあり主治医と連携し実施した。</p> <p>認知症高齢者の対応強化のため、専門研修への参加や定期的な内部研修に力を入れた。</p> <p>感染症対策を継続しつつ、手紙や雑巾縫い活動等を通してご家族や地域との交流を図った。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	18人	18人
	稼働率	99%	99.1%
	平均介護度	2.1	2.3
	事業活動収入	84,634千円	87,873千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>空床7日以内を目指し、空床発生時の速やかな入所</p> <p>施設内の他事業所と連携を図り情報を共有(月2回)</p>		<p>2名の退所があり退所による空床期間が30日発生した。事前に候補者の選定を行うも入院や新型コロナウイルス感染もあり平均空床期間が15日と目標達成に至らなかった。入院は1名29日だった。</p> <p>つなぎ・つながる会議を月2回開催し、候補者の情報交換を行い、ほのぼの中郷より1名入所した。</p>	
<p>2. 共通パンフレットを活用した営業活動による入居待機者の安定的な確保</p> <p>上越市内の総合病院・居宅介護支援事業所等へ情報提供・法人共通パンフレットを活用した営業活動の実施(年4回)</p>		<p>地域連携室(4事業所)、居宅介護支援事業所(8事業所)に訪問し、パンフレット等を活用した情報提供やPRを実施した。(年4回)</p>	
<p>3. 医療職と連携した行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ</p> <p>看護職員と情報共有し、受診・往診前の状態報告と往診の同行(月3回)</p> <p>上越市内の精神科医院へ情報提供を行い、連携を強化(年2回)</p>		<p>医療連携体制加算を取得し、看護職員と日々の健康状態の観察・情報の共有を行った。看護職員と受診・往診前の状態報告をし、往診に同行した。(月3回)</p> <p>市内精神科医院(3か所)へ情報提供とPRを行った。(年2回)</p>	
<p>4. 科学的根拠や実践効果が認められた質の高い認知症ケアの提供</p> <p>認知症介護実践者研修及びリーダー研修の受講とオンライン研修の参加(年2名)</p> <p>認知症専門ケア加算を算定するとともに、定期的な学習会・研修会の実施(年6回)</p>		<p>認知症介護実践者及びリーダー研修の受講、認知症ケアに関するオンライン研修に参加した。(年3名)</p> <p>認知症ケア加算の取得を継続すると共に、定期的な学習会・研修会を実施した。(年6回)</p>	

事業運営目標	実績
<p>5. 感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践</p> <p>家族へ定期的に手紙送付等を行う取り組みなど新しい交流方法を検討(年3回)</p> <p>縫いもの活動・花いっぱい活動・あいさつ運動等を計画し実践。(年3回)</p> <p>地域サロンへの参加、運営推進会議での外部評価を実施(年2回)</p>	<p>日頃の様子が見える写真と共に本人からのメッセージを添えて、手紙や年賀状を送った。正月明けには遠方の家族や友人からも返事をいただき、張り合いとなった。(年3回)</p> <p>縫い物活動にて中郷保育園・中郷小中学校に雑巾を届け、子供たちよりお礼状が届き交流を深めた。花いっぱい活動ではご近所の方より苗木をいただき、交流することができた。(年3回)</p> <p>③四ツ屋地区のサロンへ参加すると共に、運営推進会議で外部評価を実施した。(年2回)</p>
<p>6. 5S活動を通じた職員のエコ意識の醸成と業務の効率化によるコスト削減</p> <p>事業所内環境を定期的に点検し環境を整えるとともに、業務の効率化(月1回)</p> <p>ペーパーレス化の検討・入力作業の見直しを行い作業効率の改善(年4回)</p>	<p>浴室や居室等のコールの定期点検、共有スペースの空調(エアコン)の掃除を計画的に行い、環境整備につなげた。(月1回)</p> <p>作業効率の見直しのための検討会を開催した。(年3回)。事業所内研修ではeラーニングや動画共有サービスを活用し、ペーパーレス化を行った。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	2件	0件	2件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	-

<えんじゅの郷デイサービスセンター / 通所介護事業>

1. 事業実績

事業 総括	<p>今年度、新規数より解除数が上回り、特に認知症対応型の解除が多かったこともあり、稼働・収入とも目標を達成できなかった。キャンセルも多く、入院や短期入所利用などのキャンセルに加え、新型コロナウイルス感染症関連のキャンセルが増え実績に影響した。</p> <p>記録システムの更なる活用を進め、機能訓練計画についても、記録システムに移行し業務の効率化を図ることができた。</p> <p>新年度、利用定員変更に伴い、フロアのレイアウトの変更・環境整備を行った。また、機能訓練の強化をPRしたチラシを作成した。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	30人	30人
	稼働率	80.3%	72.0%
	平均介護度	1.8	1.8
	事業活動収入	71,159千円	63,684千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>年間・月間予定表や広報誌・ブログを活用しPRの実施(月1回)</p> <p>口コミを広げる活動の実施(月1回)</p> <p>施設内の他事業所と連携を図り情報を共有(月2回)</p>		<p>広報誌を4回発行し、ブログを9回更新した。</p> <p>利用者の紹介で13件のお試し利用があり、11件の利用に結びつくことができた。</p> <p>つなぎ・つながる会議を月2回開催し、情報交換等を行い、小規模多機能へ2名、特養へ3名つなげた。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>キャンセル数を考慮し、90%以上の予約を確保</p> <p>キャンセル待ちの解消時には、速やかに関係機関との連携実施</p>		<p>平均予約数78.1%で月初の予約件数90%を確保することはできなかった。</p> <p>タイムリーな予約管理と、速やかなキャンセル処理ができた。キャンセル待ちは全て受入れることができた。</p>	
<p>3. 通信システムを活用した日課のプログラム化と利用者満足度の向上</p> <p>通信システムを活用し、自立支援と心身機能向上のための活動を計画・実施、また、事業所別会議で活用の検討を実施(月1回)</p>		<p>通信システム活用と職員が行っている活動と併用し、新しい活動の創設と提供を行った。個々の状態にあった対応を専門的な視点からアプローチする取り組みを検討し、複合的な活動(二重課題活動)を取り入れ、心身の活性化に努めた。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業の強化と新規利用者の確保</p> <p>法人共通パンフレットや、昨年リニューアルした事業所パンフレットを活用し積極的に営業活動の実施(月1回)</p>		<p>毎月の事業所訪問を行ない、利用者状況報告や空き状況を伝えた。</p>	

事業運営目標	実績
<p>5.短期入所と連動した機能訓練・栄養相談など多職種協働によるトータルサービスの提供</p> <p>機能訓練・口腔・栄養の連携を強化し、多職種と一体的な運用を実施</p> <p>定期的に機能訓練会議を開催し情報共有・研修を実施(1回)</p>	<p>身長・体重測定を実施し、栄養指標のBMIの確認することで、機能訓練指導員・管理栄養士・介護支援専門員と情報共有した。</p> <p>毎月、機能訓練会議を実施し訓練内容を多職種で共有した。研修を2回行った。</p>
<p>6.ケアプランの質の向上と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用</p> <p>システムによるケアプランやモニタリングの作成への移行実施</p> <p>新書式について周知し、速やかな移行</p>	<p>部会でマニュアルを作成し周知する研修を行った。</p> <p>評価(モニタリング)において新たな課題が見つかり、部会で再検討しているため移行はできなかった。</p>
<p>7.感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供</p> <p>基本的な感染症対策の徹底を継続し、利用者の安全を確保</p> <p>実践的な感染症予防のシミュレーション訓練の実施(年2回)</p>	<p>5月に1日休業することがあったが、消毒や予防対策の実施、感染症対策文書の定期的な配布を行い、安全確保に努めることができた。</p> <p>図上訓練と個人防護具着脱訓練を実施できた。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 妙高の里デイサービスセンター / 通所介護事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>休止事業所からの移行者は想定よりも少なかったが、新規依頼を積極的に受け入れたことで昨年度を上回る新規利用者を得ることができた。</p> <p>予約処理については、キャンセルを見越した予約調整を行いつつ、利用日数の増加等を個別に提案してきたが、目標を超える予約数を得ることができなかった。</p> <p>新規利用者の受け入れや通常規模型から認知症対応型への移行を積極的に行ったが、新型コロナウイルス感染症等によるキャンセルが多く目標達成はできなかった。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	32人	32人
	稼働率	81.2%	73.7%
	平均介護度	2.1	2.5
	事業活動収入	86,184千円	73,792千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>休止する事業所からの利用者の受け入れを、法人内通所介護事業所と協力し調整を図り、全ての利用者をスムーズに移行</p>		<p>休止した事業所からの移行者は想定よりも少なかったが、移行される利用者に対してはスムーズに移行することができた。新規契約者については、第3四半期まで順調に依頼があり例年よりも多い38件の新規契約があった。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>キャンセル率を考慮した予約管理の徹底(予約率90%以上)</p> <p>キャンセル待ちの解消時における関係機関との速やかな連携</p>		<p>契約者数の増加に伴い予約率も上昇してきているが、キャンセル数の増加もあり平均で84.3%と目標には届かなかった。</p> <p>7月から1～3件程度のキャンセル待ちが発生したが、キャンセル後に速やかに対応し、いずれのキャンセル待ちも解消された。</p>	
<p>3. 通信システムを活用した日課のプログラム化と利用者満足度の向上</p> <p>通信システムの機能を活用して日課のプログラム化を図り、全職員が1名で進行できる日課を構築</p>		<p>10月より通信システムを導入、BGMとしての活用から開始したが、体操・カラオケ・クイズ等徐々に活用の範囲を広げた。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業の強化と新規利用者の確保</p> <p>法人共通パンフレットに準じた、通常規模型と認知症対応型のパンフレットを作成し、新規利用時に活用</p>		<p>10月以降内容の検討を始めたが、思うように検討が進まず作成に至らなかった。</p>	

事業運営目標	実績
<p>5.短期入所と連動した機能訓練・栄養相談など多職種協働によるトータルサービスの提供</p> <p>機能訓練指導員が作成した訓練計画をもとに、介護職員と看護職員による生活動作の向上を目的とした訓練を継続</p>	<p>10月から機能訓練指導員が配置され個別機能訓練を再開した。火曜日と水曜日のみだが、訓練希望の新規利用もあり対象者は順調に増加している。</p>
<p>6.ケアプランの質の向上と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用</p> <p>記録システムの活用を継続し、システムによるケアプランやモニタリングの作成に移行</p> <p>新書式について周知し、速やかに移行</p>	<p>現状使用している書式の使用と並行して記録システムへの移行を開始した。</p> <p>職員への入力方法等の周知は実施されたが、運用時期の調整がつかず移行に至らなかった。</p>
<p>7.感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供</p> <p>基本的な感染対策の徹底を継続し、利用者の安全を確保</p> <p>迅速な初動対応ができるように、実践的な感染症予防のシミュレーション訓練を実施(年2回)</p>	<p>毎月の事業所別会議にて感染症対策委員会を実施し、感染症対策の確認と継続を周知した。</p> <p>9月と1月にシミュレーション訓練を実施した。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 特別養護老人ホーム名香山苑 / 介護老人福祉施設事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>新型コロナウイルス感染症発生により稼働率が 93.1% となり安定的な稼働率を維持ができなかった。空床数が増えたことで空床型短期入所利用日数を前年度より 139 日多く活用することができた。</p> <p>重度化防止及び入院原因の分析を多職種で検討し前年度より 138 日入院日数を削減できた。</p> <p>職員確保が困難であることや感染症等により職員の突発的な休みに備えて業務内容の見直しを検討するも重度化に伴う業務量の増加により依然として解決策が見当たらない。</p> <p>見守り介護ロボットの導入により家族に看取り期の状況を詳しく報告できるようになった他、職員の精神的負担軽減につながった。また、見守りカメラを活用した事故分析を 4 件行った。</p> <p>地域のこども園や小中学校と作品の寄贈等を通してつながりを維持することができた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	100 人	100 人
	稼働率	96.5%	93.1%
	平均介護度	4.3	4.3
	事業活動収入	444,039 千円	430,055 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>併設・空床型短期入所を積極的に活用することにより、入所候補者を安定的に確保(空床日数 7 日以内)</p> <p>あらかじめ入所候補者 3 名を選定し、空床発生時に速やかな対応</p>		<p>第 3 四半期までは空床日数の短縮及び空床短期入所利用は目標達成できたが、第 4 四半期は新型コロナウイルス感染症により空床日数が増加した。</p> <p>② 毎月の情報共有会議で入所候補者を選定し、空床発生時は速やかな入所を行ったが、感染症発生時は空床が多くなり、選定が間に合わない状況となった。</p>	
<p>2. 多職種協働による入院日数の削減</p> <p>多職種協働による入院原因の分析と適切な介護・看護につなげるための検討会議の実施(月 1 回)</p>		<p>毎月グループ毎に入院原因を分析し、水分補給回数や座位姿勢等ケア方法の見直しを実施した。</p>	
<p>3. 生活相談員業務の見直しや入所手続きの迅速化による空床日数の削減</p> <p>空床型短期入所事業の担当者を明確化し、空床発生時に速やかに対応できる体制</p> <p>妙高病院、居宅支援課、短期入所課との連携体制を維持・強化するため、情報共有会議の実施(月 1 回)</p>		<p>事前に空床状況を把握し、病院の依頼や妙高市の虐待ケースの相談等臨機応変に対応した。</p> <p>② 新型コロナ感染予防対策のため、定期での開催は困難であったが、4 月～11 月、3 月に開催した。</p>	
<p>4. 人権尊重と利用者本位の確かな介護の提供</p> <p>個々の施設サービス計画を実践し目標達成できるように支援(生活・機能・栄養・褥瘡・排泄・口腔の目標達成 80% 以上)</p> <p>質の高いケアマネジメントの実践を目指し、法人内特養において四半期に一度検討会を実施</p> <p>不適切ケア・身体拘束ゼロを目的とした検討会議の実施(月 1 回)</p>		<p>① 評価対象者 89 名中の達成率は、生活 87.6%・機能 75.3%・栄養 84.3%・排泄 91.0%・褥瘡 100%・口腔 96.6% となった。</p> <p>② 5/16, 9/2, 11/14 の年 3 回開催し、アセスメント書式の改定等を実施した。</p> <p>③ 毎月の身体拘束廃止委員会にて解除に向け検討した。身体拘束者数 2 名(改良着)</p>	

事業運営目標	実績
<p>5.科学的介護の推進と業務の効率化</p> <p>新たに導入するコールシステムや介護ロボットを活用した事業内容の見直し</p> <p>定期的にL I F Eの評価票を作成・提出し、フィードバック情報をケアに反映</p> <p>オンライン研修を取り入れた新たな研修体制による、業務の効率化と働きやすい環境の構築</p>	<p>①見守り介護ロボット(5台)の活用状況について毎月評価を実施した。また、見守りカメラ付きコールシステムを3月より運用開始した。</p> <p>②毎月対象者のL I F E評価票を作成し提出した。フィードバック情報ではケアの反映はできないが、評価票から情報収集し反映させた。</p> <p>③外部開催のオンライン研修に参加した。事業所での研修体制の構築をすることができなかった。</p>
<p>6.感染予防の徹底と新しい生活様式下での家族や地域とのつながり方の検討と実践</p> <p>家族との交流機会を確保するため、感染状況に応じた面会方法を実施</p> <p>対面にならない非接触型のボランティアを検討し実践</p> <p>地域のこども園や小中学校との交流機会を確保するため、DVDや通信機器を活用した新しい形の交流会を検討し実践</p>	<p>感染状況に応じてパーテーション越しでの面会やオンライン面会を実施した。</p> <p>②2団体受け入れた。外側から窓拭きと外壁掃除、ベランダ掃除を行っていただいた。</p> <p>③10/26 妙高高原北小学校へ「福祉の仕事」講話 10/29 妙高高原中学校の文化祭に作品展示 妙高高原こども園と妙高高原中学校に卒業式及び入学式の壁画を作成し寄贈した。</p>
<p>7.5S活動を通じた職員のエコ意識の醸成と業務の効率化によるコストの削減</p> <p>個々の状態に合わせて、紙オムツの機能性と吸水性を最大限活かした排泄ケアを実現するための検討会実施(月1回)</p> <p>在庫整理及び管理を行い、必要物品の把握とコスト意識を周知徹底</p>	<p>排泄ケア検討会議を毎月開催し個別に応じたパッド選定、交換回数の見直しを行った。</p> <p>②定期的に材料庫内の物品整理を実施しコスト軽減の啓発を行った。新型コロナウイルス感染症発生に伴い物品の在庫場所及び管理方法の見直しを行った。</p>
<p>8.入所者(利用者)に快適に過ごしていただくための計画的な設備更新(*)</p> <p>高効率で環境に配慮した電気式個別・マルチエアコンの入れ替え実施(名香山苑在宅サービス共通)</p>	<p>新館の空調設備入替工事を完了した。その他に2階吹き抜けの北側と東側の壁紙張替えを行った。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	5件	0件	5件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 名香山苑 / 短期入所生活介護事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>特養空床の利活用及び、妙高病院や介護支援専門員との連携を図ることで、無駄のない入退所の調整を行うことができ、空床期間軽減、稼働率の大幅な低下を防ぎ安定を図ることができた。</p> <p>医療依存度の高い方や対応困難ケースについては、多職種との連携を図り緊急時や対応困難時の体制を確保したうえで、可能な限り積極的に受け入れることができた。</p> <p>入所待機者及び冬季長期利用者の受入れについては、特養との連携のもと、居宅介護支援事業所への積極的な関わりをもつことができ、安定的に確保することができた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	22人	22人
	稼働率	86.0%	90.1%
	平均介護度	2.8	2.8
	事業活動収入	73,904千円	83,149千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>生活相談員が居宅介護支援事業所へ定期的に訪問し、空き情報の提供や利用者の情報交換等を通じて相談されやすい環境作りを実施</p> <p>介護支援専門員と新規利用者や困難ケースの対応方法を共有し、手順書に記録することで統一した対応を実施</p>		<p>居宅介護支援事業所への訪問は実施できなかったが、空き情報の提供や必要に応じ情報交換は柔軟に行った。</p> <p>介護支援専門員だけでなく、関係するサービス事業所との連携を図り、統一したケアが実施できるよう、個々のケース、個別留意事項の修正を行った。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>月初の予約率を目標稼働率 + 5%以上に確保</p> <p>特養の入院状況の把握やキャンセル発生時の調整力を強化するため、特養・居宅介護支援事業所との情報交換会の実施(月1回)</p>		<p>月初の予約率は92.4%となっており、目標の91%以上を確保することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防対策のため、定期での開催は困難であったが、4月～11月、3月に開催した。</p>	
<p>3. 共通パンフレット等を活用した営業活動による長期利用者の安定的確保</p> <p>法人共通パンフレットを地域住民が集まる場所に配置するとともに、民生委員等へ直接配布し、法人事業間の連携体制をPR</p> <p>法人共通パンフレットの居宅介護支援事業所等への配布・説明を通じ、利用希望者に特養入所までの長期利用等についての情報を提供</p>		<p>施設入所課や居宅支援課と連携し、妙高病院や妙高原支所に配置した他、民生委員等への配布を行った。</p> <p>利用者、家族へは契約時に配布し、長期利用等についても必要に応じ説明を行った。</p>	
<p>4. 通所介護事業との個別機能訓練の連動と法人サービス間のつながりの強化</p> <p>記録システムやネットワークシステムを使って個別機能訓練や介護情報を共有し、適切な生活リハビリや介護につなぐ</p>		<p>記録システムによる情報の共有を図ることはできたが、生活リハビリにつなげることはできなかった。</p>	

事業運営目標	実績
<p>5. 行動障害等の対応困難ケースの積極的な受け入れ 対応困難ケースの状況を把握し、適切に対応するための研修会や検討会を実施(月1回) 行動障害には、医療・看護・介護・介護支援専門員等が連携し、治療薬や対応方法を適切に見直す等安全な利用につなぐ</p>	<p>事業所別会議及び必要時に検討会を行ったが、研修会は実施することができなかった。 必要に応じ関係機関と情報の共有及び連携を図り、治療薬の新たな処方や調整により安全な利用の継続につなげることができた。</p>
<p>6. 情報の共有化と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用 新たに導入する記録システムやコールシステムを活用した業務の効率化と情報の共有化を推進 記録システム等の活用状況やその効果等を定期的に検証し、使用方法等を見直しするための検討会を実施(月1回)</p>	<p>記録システムは活用できており、記録等の負担軽減を図ることができた。コールシステムは見守りカメラの一部運用を開始した。 事業所別会議にて検討会を行い、必要に応じ改善を行った。</p>
<p>7. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供 新しい生活様式に基づいた感染予防対策を徹底するとともに、感染症発生時の研修及び訓練を実施(年2回)</p>	<p>感染症予防対策の徹底を継続し、研修及び訓練を実施した。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	3件	0件	3件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 名香山苑デイサービスセンター / 通所介護事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>年度当初より過去最高の稼働率を達成した6月を含め高稼働率を維持していたが、下半期の12月より新型コロナウイルス感染症による事業縮小の影響や降雪に伴うキャンセルの影響もあり稼働率が低迷したこともあり84.5%と達成には至らなかった。</p> <p>通信システムの活用による日課のプログラム化と定期的な更新によりご利用者のニーズに適合した活用と業務の効率化を図ることができた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	定員	35人	35人
	稼働率	86.0%	84.5%
	平均介護度	1.7	1.7
	事業活動収入	89,898千円	85,343千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>機能訓練に特化した事業をアピールするため、機能訓練パンフレットを作成してPR</p> <p>機能訓練機器の充実を図り、それらを用いた機能訓練メニューを拡充</p>		<p>機能訓練指導員を中心に多職種共同で事業をアピールするために定期的に内容検討してきたが作成し、PRするまでには至らなかった。</p> <p>利用者の身体機能向上に効果的でニーズの高かった上肢交互運動器を導入したことでメニューが充足し、対象ご利用者の運動効果が向上した。</p>	
<p>2. キャンセル数を見込んだ予約管理とキャンセル処理の迅速化</p> <p>キャンセル率を考慮した予約管理の徹底(予約率90%以上)</p>		<p>平均予約率は94.7%で目標を達成した。</p>	
<p>3. 通信システムを活用した日課のプログラム化と利用者満足度の向上</p> <p>通信システムの機能を活用して効率的なプログラムを構築</p>		<p>定期更新を図りながらご利用者のニーズに合った「機能回復」や「娯楽」など多様なコンテンツを活用し、日課に反映できた。</p>	
<p>4. 共通パンフレットを活用した営業の強化と新規利用者の確保</p> <p>法人共通パンフレットに準じた、通常規模型と認知症対応型それぞれのパンフレットを作成し、営業活動に活用</p>		<p>令和4年度版パンフレットを作成したが、事業のストレンクスを活かした内容に再度修正する方向にし、作成中のため営業活動への活用までには至らなかった。</p>	
<p>5. 短期入所と連動した機能訓練・栄養相談など多職種協働によるトータルサービスの提供</p> <p>心身機能や状態が大きく変化したご利用者の情報交換を密に行うことでケアの統一</p>		<p>事故防止対策や健康状態の変化により大きな身体機能の低下のあったご利用者のケアの統一を図るため、定期的に生活相談員を中心に情報交換の機会を設けた。</p>	

事業運営目標	実績
<p>6. ケアプランの質の向上と業務の効率化を図るための積極的な記録システムの活用</p> <p>記録システムの活用を継続し、システムによるケアプランやモニタリングの作成に移行</p>	<p>記録システムによるケアプランの作成手順はマニュアルを基に操作説明会を行った。移行についてはモニタリングとの連動を図るため再検討が必要であり、移行には至らなかった。</p>
<p>7. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なサービスの提供</p> <p>基本的な感染対策の徹底を継続し、利用者の安全を確保</p> <p>迅速な初動対応ができるように、実践的な感染症予防のシミュレーション訓練を実施(年2回)</p>	<p>感染症の予防対策についての注意喚起のお知らせを利用者やその家族に配布文章で周知した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防のためのシミュレーション訓練の研修を年2回実施した。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	1件	1件	2件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
0件	

< 名香山苑在宅介護支援センター / 居宅介護支援事業 >

1. 事業実績

事業 総括	<p>介護給付、予防給付問わず積極的に新規を受け入れ、目標を達成することができた。</p> <p>特定事業所として、困難ケースにも適切に対応できるよう、年間の事業執行計画に沿って研修を行った。新任介護支援専門員に対しても、個別に研修を行い、知識や技術の習得を進め、一人でも一連のケアマネジメントを行うことができるようになった。</p> <p>つなぎ・つながる会議を定期開催し、施設内事業所及び妙高病院との情報共有、連携に努めた。</p>		
目標	項目	目標	実績
	稼働率(平均件数/月)	200 件 / 月	209.5 件 / 月
	平均介護度	1.6	1.6
	事業活動収入	30,965 千円	32,008 千円
事業運営目標		実績	
<p>1. 稼働目標達成のための取り組み</p> <p>稼働率向上に向け、積極的に新規を受け入れるため、地域包括線センターや妙高高原支所、妙高支所、妙高病院に空き情報を発信(月 1 回)</p>		<p>毎月初めに地域包括支援センターや支所に空き情報を伝え、特に介護給付の方の紹介を依頼した。</p> <p>新規依頼 92 件、解除 83 件 (介護 予防の方は含まない)</p> <p>妙高病院とも日常的に連絡を取り、退院から在宅生活再開や施設入所に係る支援などタイムリーに行うことができた。</p>	
<p>2. 地域包括支援センターとの連携やサービス調整機能の強化による新規利用者の積極的な受け入れ</p> <p>多職種協働の実践、タイムリーな支援ができるように、対人援助スキルを高めるための研修を実施(年 2 回)</p> <p>特定事業所として、困難ケースに適切に対応を行うため、個別年間計画に基づき計画的にスキルアップ研修を受講(通年)</p>		<p>年間計画に沿って 5/20、11/4 に対人援助に関する研修を行った。</p> <p>支援困難ケースへの対応力を強化するため、毎月事例検討を行った。2/28 にはみなかみの里居宅支援課、ヘルパーステーション北条と合同で事例検討会を行い、支援方法の振り返りや今後の方策の検討を行った。</p>	
<p>3. 介護と予防給付のバランス維持とそれぞれに合ったケアマネジメントの充実</p> <p>予防マネジメント件数の適正化(給付管理数・介護 8 : 予防 2 の割合を維持)(通年)</p> <p>ケアマネジメントの一連の流れに沿った研修を実施(年 6 回)</p>		<p>新規紹介は介護給付の方で依頼しているが、名香山苑居宅支援指名の予防給付の方も多く、お断りすることなく受けた。給付管理の割合は介護 7 : 予防 3 であった。</p> <p>5/20、11/4 に対人援助技術研修、6/17 アセスメント研修、7/15、1/26 プラン作成研修、9/30 サービス担当者会議研修を実施し、一連のケアマネジメントの流れについて再確認し、実際のプラン立案時に活用できる知識を習得することができた。</p>	

事業運営目標	実績
<p>4. 共通パンフレットを活用した利用者と法人事業をつなぐ営業の強化</p> <p>名香山苑の特養、短期入所事業との連携強化により、スムーズなサービス利用を図るための連絡会議を開催(月1回)</p> <p>法人事業の新規紹介率は福祉用具貸与のみ、医療系サービスのみ利用者を除いて算出(目標紹介率: 90%)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防対策のため、定期での開催は困難であったが、4月~11月、3月に開催した。</p> <p>(福祉用具のみを除く)予防・介護給付の新規利用者74名の内、60名を法人内サービスにつなげた。(紹介率81.1%)</p>
<p>5. 感染予防の徹底と新しい生活様式に対応した安心・安全なケアマネジメントの実践</p> <p>基本的感染対策を徹底した感染症のまん延防止</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する各サービス事業所の対応を定期的に確認し、在宅生活を続けられるようケアマネジメントを実施(事業所への確認は月1回)</p>	<p>訪問時のマスク着用等基本的な感染対策を徹底し通常業務を継続した。契約締結時には、感染対策への協力を依頼する文書を配布し説明を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症発生により、複数のサービス事業所の事業縮小や休止があったため、事業所に感染症対応を変更する場合は、一報するよう依頼した他、各事業所の状況を確認しながらサービス調整を行った。</p>
<p>6. 居宅介護支援事業所選定時の指名件数増に向けた在宅介護支援センターの相談機能の強化</p> <p>地域の課題解決や社会資源の掘り起こしに向けて関係機関と連携しながら、妙高高原地区の地域包括ケアを推進し、その内容を広報誌でPR(年1回)</p>	<p>8/18 に地域包括支援センター主催の妙高地区のインフォーマルサービスなどの社会資源についての検討会に参加し、現状や問題点、今後の課題などを共有した。</p>

2. 事故発生状況

項目	介護医療関連	その他	合計
件数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件数	受付内容
1件	<p>4/18 担当介護支援専門員が利用者の家族に新型コロナウイルス感染症疑いがあるという情報を、家族の了解を得ずにサービス事業所に伝えたことに対して「信用性が欠ける。再度、個人情報の取り扱いを徹底してほしい」との苦情を受け付けた。「家族等の新型コロナウイルス感染症情報を他の事業所から報告を受けたら、まず家族へ事実確認し、しっかりと家族と打ち合わせをして欲しい。」という要望。書面で回答した。妙高市福祉介護課にも苦情受付の旨を報告した。</p>

< 妙高市高齢者生活福祉センター妙高の里 / 委託事業 >

1. 事業実績

事業 総括	定員 12 名のところ、12 月から 4 月までの 5 ヶ月間で、10 名の方が入居された。 入居理由は降雪のため自宅での生活が困難な方がほとんどだった。入居中は、体調不良等なく生活された。職員による施設内清掃を強化し、清潔な環境で生活できた。		
	事業運営目標	実 績	
	1. 妙高の里居住部門管理運営業務の適正且つ円滑な実施 個々の居住空間、プライバシーを尊重し、自立した生活を送ることができるように支援 バイタルチェック(体温・血圧測定等)により、毎日の体調を記録し、健康管理に役立て、変化のあるときには適切なアドバイスを実施 感染症や食中毒に関し、情報提供し発生予防や感染の拡大を防止 共同生活に係わる事項について、不便さや悩み等に相談対応、支援の実施 災害時の避難訓練への参加を通し、防災意識の強化と緊急時の対応を明確に示し確実に対応 妙高市等関係機関との連携を図り、安心して安全な生活環境を整備	日中は、支援員が見守り、夜間は宿直員が滞在し、個々の生活を援助した。 毎朝、バイタルチェックを行い、異常の早期発見に努めたことで、期間中の体調不良者はいなかった。 支援員が見守りと情報提供を徹底し発生防止や感染症拡大に努めた。 ④支援員が相談相手となり対応した。 総合防災訓練・初期消火訓練を実施した。 5月～11月に施設内清掃を強化し清潔な環境を整えた。また、6月と11月に防虫駆除を実施した。	

2. 事故発生状況

項 目	介護医療関連	その他	合計
件 数	0 件	0 件	0 件

3. 苦情受付状況

件 数	受付内容
0 件	-